

大会レポート

第590回8月度大会 H26年8月26日 若狭大島 西森渡船

河野靖忠

当日の舞鶴地方の天気予報では午前午後とも60%で前線が通過して雷にも注意とのことで心配しながらではありました。出船前雨がぱらついて、船頭さんの見立てでは雨がきつくなるので合羽を着込んでおいたほうが良いとのことで皆さん合羽を着込んで出船です。そして関西チヌ研の皆さんは涙水の筏でとのことで秋山副会長1番に筏に乗ります。次に山川副会長と上西さん、次山本さん、最後に私と云う順になりました。

心配した雨も無く潮の流れも緩やかで釣りやすく、日が昇るにしたがって小あじの群れに水潮のせい大きいボラが数引きゆうゆうと泳いでおります。

今日の私は釣り餌はオキアミにサナギ、コーンは家から缶詰を持参、目が悪いので、ゆれる筏で仕掛けを作るのがわずらわしく、家で2種類を作って持参します。2号錘と2号の道糸の遊動仕掛けに5号の針、それと錘のない2号通し4号の針、朝1番にどちらを使うかはその時の気分、今日は錘のない方に決めました。ダンゴも家で作ります。材料は米ぬか、砂、サナギ粉、パン粉パン粉などどうでもいいのですが、これを入れないと粘りが出ない。それに餌屋で生餌を混ぜても1回分2000円位で収まります。針につける餌代計1000円位、渡船4000円、お礼3500円と弁当、交通費など併せて15000円以下ですからパブリックゴルフなどと余変わりません。遊びは高くつきます。

そうゆう訳でテニスボール大のダンゴでオキアミを包んで落とします。朝が早いせいか餌取も少なく2度目の押さえるあたりを合わせて25cmあるか無いかが上がってきました。曇ったままですから太陽がどこにあるかは判りませんが時間が経つにつれ小あじの大群、その下に大ボラの群れ、中層にボラが居る時は、ボラが大好きな米ぬかベースのダンゴは中層でつつき割られ底には届きません。そこで2Bの錘を噛み付けます。ボラにダンゴを割られても中心を外せばチヌの居る底に届く率が多くなります。それでもボラにオキアミを吸い込まれて竿が大きくしなりますので合わせて底から早く引き上げます。細い糸や竿にダメージを与えないように勢いよく合わせて引き上げるのをためらうと、そのボラを見たチヌは危険を感じて散ってしまいます。名人の山川副会長もそんな細い糸は使いません。1.75号以上の糸だとめったに切れる事がないので安心して大きい魚とやり取りが出来るのです。底のボラは泥を吸い込んだり吐いたりします。そこにチヌは大好きな貝やゴカイなどが出て来るのを待ちます。そんな訳でボラの周りにチヌが必ず居るのです。今日のように水潮が予想される時は土ベースのダンゴが好ましいです。ボラにつつかれますが沈みが早い、粘りがあるので割れにくい。日本海側は土禁止の所が少ない。日本海側の市販のダンゴ材料は土が混ざった物が多く粘りもあり堅くも握れるのでお奨めです。

9時ごろにオキアミでいきなり大きな当たりを合わせるとサンバソウ、私の手で測りますと23cm、ボラの群れが大きくなってきました。餌と針を変えます。針5号、餌はサナギとコーン、サナギは半分にちぎりコーンと交互に刺します。10時前その餌でボラと間違えそうな強い引きで40cm前後のチヌです。1時までに25cm以上が4匹になりました。水潮のせい食べ渋りです。ボラが浮いているようではいけません。 本日の釣果

山川副会長	25=5匹、26=2匹、27=2匹、27.5=1匹、	計10匹	匹数優勝
秋山副会長	26、27.5	計2匹	匹数2位
私 河野	25.5、26、28、39	計4匹	長寸優勝
上西さん	25、26.5、27.5、29	計4匹	長寸2位

4賞が揃いました。水潮と云えども日本海側では1番釣れている、さすがの大島ですねえ。山本さん次回がんばって下さい。